

1 笠松町人口ビジョンの概要

(1) 笠松町人口ビジョンの位置づけ

笠松町人口ビジョンは、笠松町における人口の推移及び現状の分析と、将来への変化を推測し、人口減少を克服するために笠松町の特徴と課題を把握し、目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を示すものです。

さらに、まち・ひと・しごと創生の趣旨を踏まえ、笠松町総合戦略において実効性のある施策を企画立案するための重要な基礎として位置づけます。

なお、笠松町人口ビジョンは、笠松町の行政運営の最上位計画である「笠松町第5次総合計画」をはじめとして、各個別計画との整合性を図りながら策定するものであり、「笠松町第5次総合計画」において将来人口として掲げた、目標年次(平成32年)における総人口22,500人を踏まえて策定します。

(2) 笠松町人口ビジョンの対象期間

笠松町人口ビジョンの対象期間は、2060年とします。





2 笠松町の人口の現状と将来人口の推計

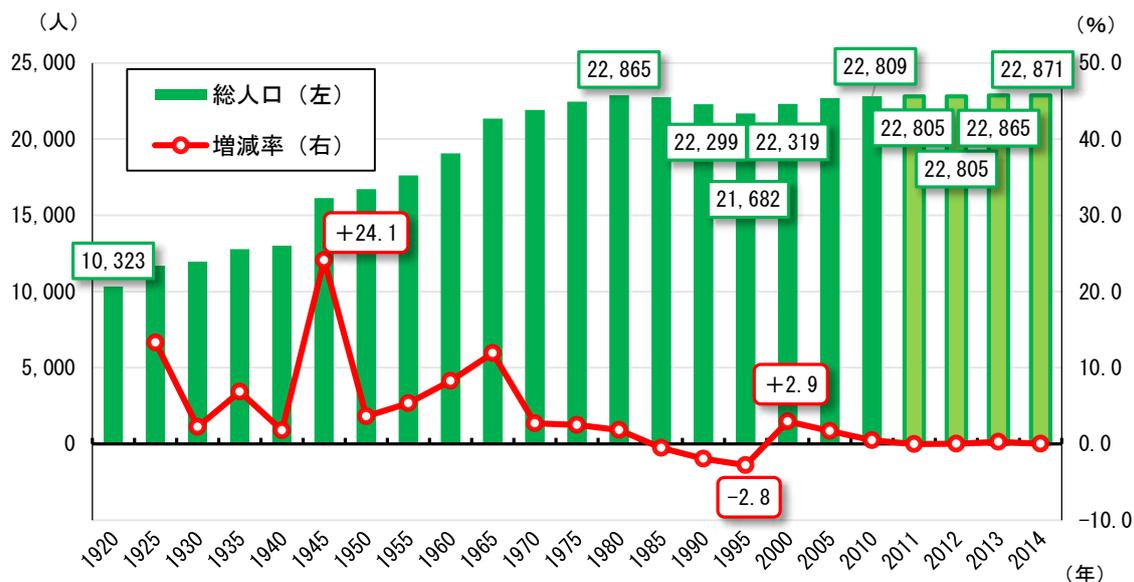
(1) 現状と将来の分析

① 人口動態

1) 総人口及び増減率の推移

笠松町の総人口は、1980年（昭和55年）の国勢調査時（22,865人）まで一貫して増加を続け、ピーク時の総人口は1920年（大正9年）の2倍以上となっています。1980年（昭和55年）以降も、笠松町の総人口は比較的安定して推移しており、直近の2010年（平成22年）の国勢調査時（22,809人）までで56人減と、30年間の増減は比較的小さいと言えます。

また、笠松町の総人口は、県の「岐阜県人口動態統計調査」によると、2011年（平成23年）以降も横ばいで推移しています。

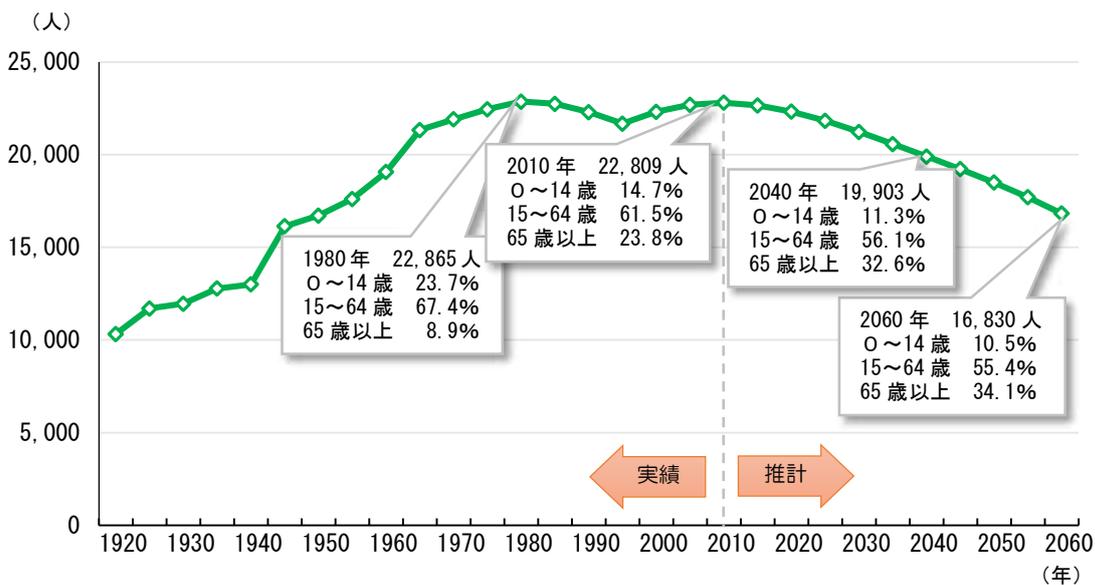


【出典：（1920～2010）総務省統計局「国勢調査」、（2011～2014）岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」】

2) 総人口将来推計と人口構造の変化

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」といいます）によれば、笠松町の将来の総人口は一貫して減少し、2040年の総人口は19,903人、2060年は16,830人と推計されています。

また、笠松町の人口構造は、年少（0～14歳）人口及び生産年齢（15～64歳）人口の割合の減少と老年（65歳以上）人口の割合の増加により、大きく変化することが予測されています。



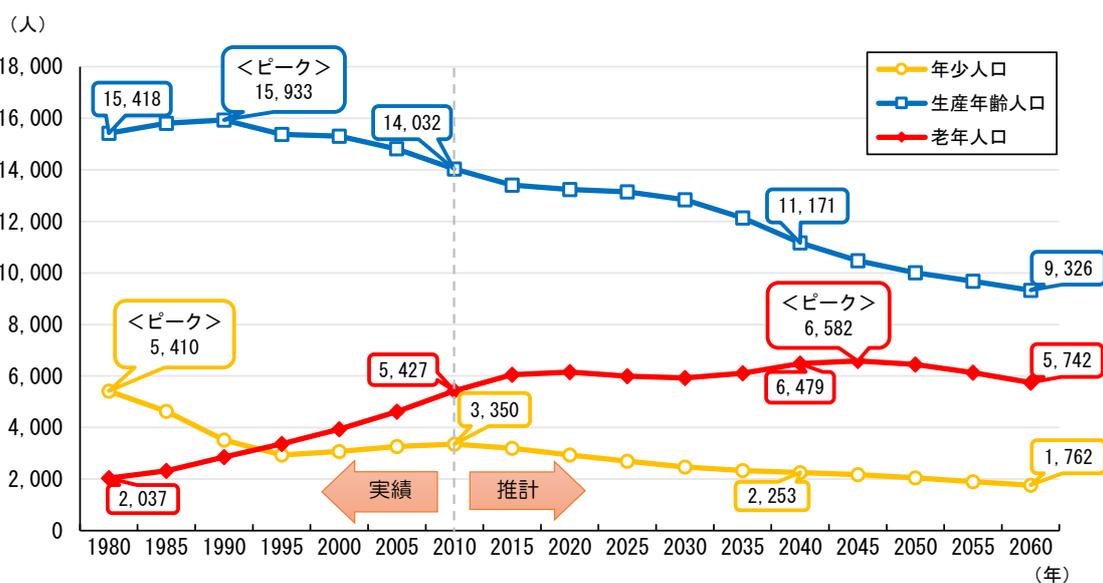
【出典：（1920～2010）総務省統計局「国勢調査」、（2015～2060）社人研推計準拠により独自推計】

3) 年齢3区分別人口の推移と将来推計

笠松町の年少人口は、1980年（昭和55年）以降減少傾向にあり、2040年に2,253人（1980年比3,157人減）、2060年には1,762人（同3,648人減）にまで減少すると見込まれています。

生産年齢人口は、1990年（平成2年）をピークとして減少傾向にあり、2040年は11,171人でピークの約70%、2060年は9,326人でピークの約59%にまで減少します。

老年人口は、1980年（昭和55年）以降増加傾向にあり、2045年（6,582人）までは増加しますが、2045年以降は減少すると推計されています。



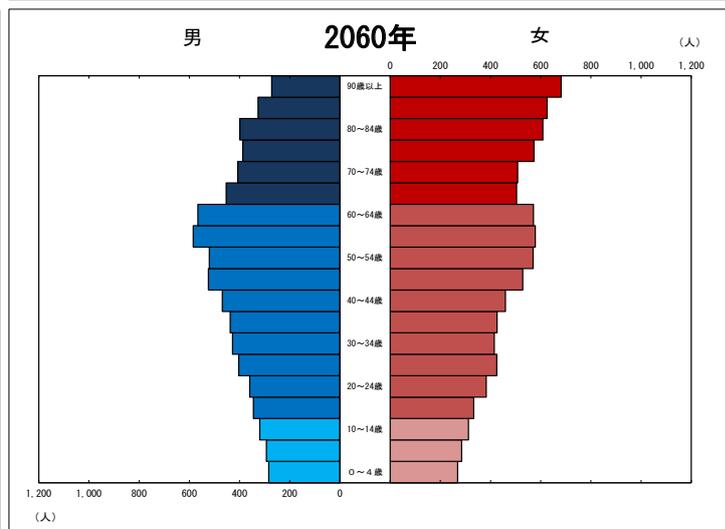
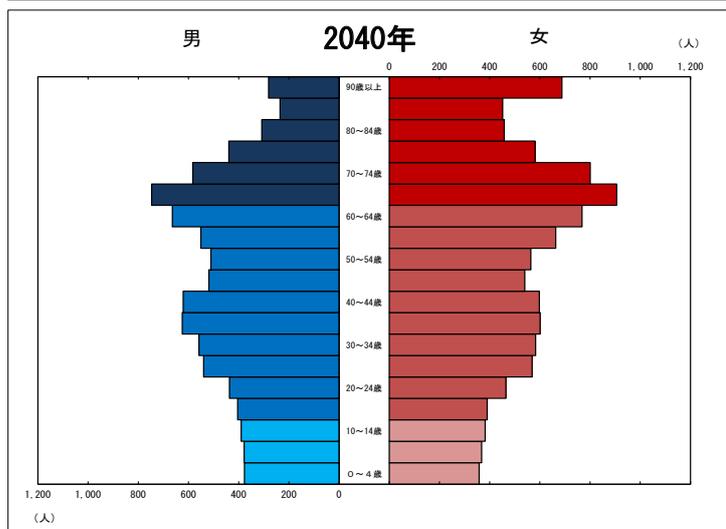
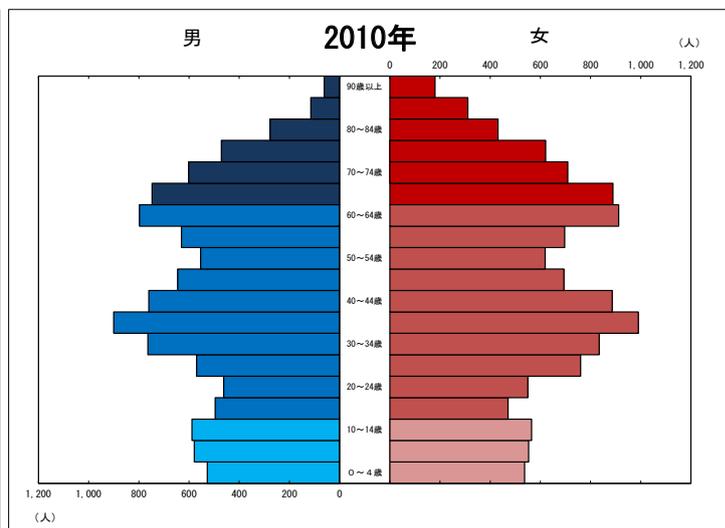
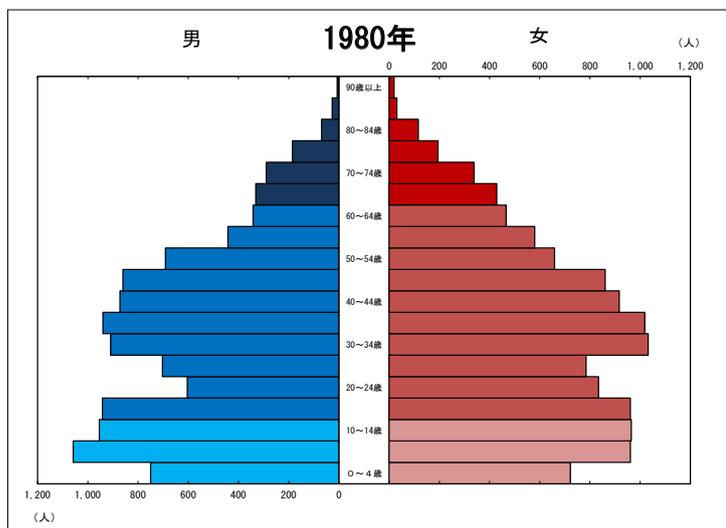
【出典：（1980～2010）総務省統計局「国勢調査」、（2015～2060）社人研推計準拠により独自推計】



4) 人口ピラミッドの変遷

1980年（昭和55年）の笠松町の人口ピラミッドは、5～19歳（第2次ベビーブーム世代）及び30～49歳（第1次ベビーブーム世代）の年齢階級に厚みがありましたが、2010年（平成22年）は、その世代が年齢を重ねて30～44歳及び60～74歳の年齢階級に厚みがあります。しかし、若年層の人口には厚みが見られず、全国同様笠松町においても、第3次ベビーブームが生じなかったことを表しています。

社人研の推計によると、2040年の笠松町の人口ピラミッドは、第2次ベビーブーム世代が60～74歳となる一方で、若年層の人口はさらに少なくなっていく予定です。また、2060年には全年齢階級においてピラミッドがさらに細くなり、このままでは人口減少が加速することが予測されます。

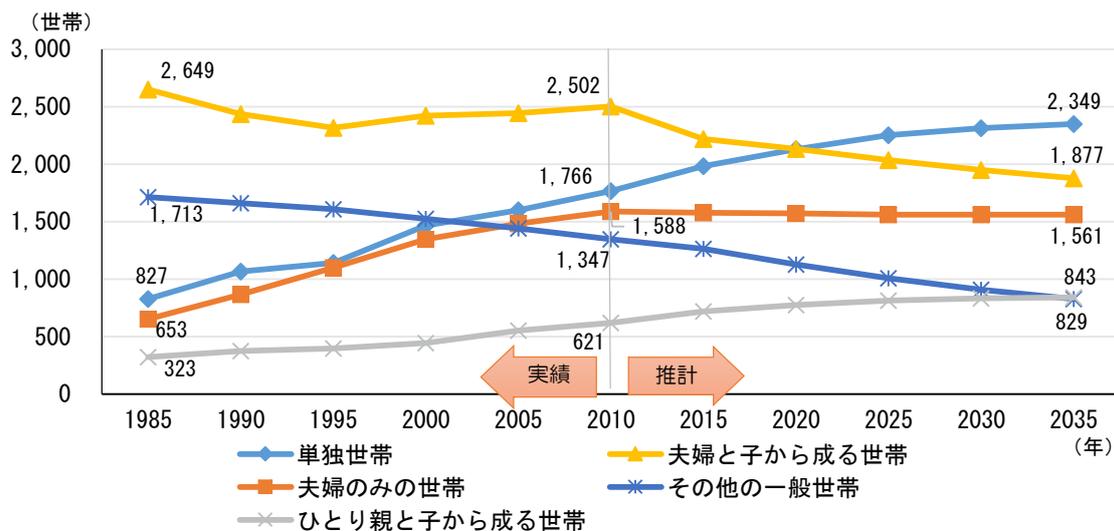


【出典：（1980、2010）総務省統計局「国勢調査」、（2040、2060）社人研推計準拠により独自推計】



5) 家族類型別一般世帯数の推移と将来推計

単独世帯数は、1985年（昭和60年）以降増加し、今後も増加することが予測され、2035年には2,349世帯となり、1985年（昭和60年）の3倍近くになります。同様に夫婦のみの世帯数は、2010年（平成22年）が1,588世帯と1985年（昭和60年）の653世帯から935世帯増加していますが、2035年までは同水準で推移すると予測されています。



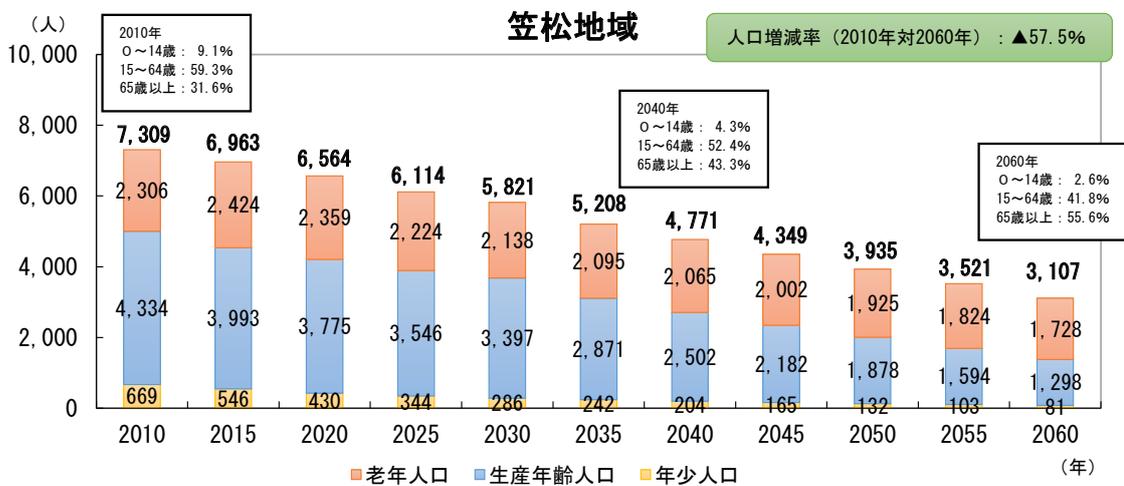
【出典：（1985～2010）総務省統計局「国勢調査」、（2015～2035）社人研推計準拠により独自推計】



6) 地域別の総人口及び年齢3区分別人口の将来推計 (社人研準拠)

< 笠松地域 >

笠松地域は、2010年(平成22年)時点の高齢化率(総人口に対する65歳以上の老年人口の割合)が31.6%と3地域の中で最も高齢化が進み、若年女性人口(15~49歳)に対する出生数の割合が最も低い(笠松地域=1.60%、松枝地域=4.20%、下羽栗地域=8.79%)という特徴があります。そのため、他の2地域に比べて、少子高齢化の影響が大きくなります。また、2010年(平成22年)の総人口に対する2060年の人口増減率は最も低くなると推計されています。

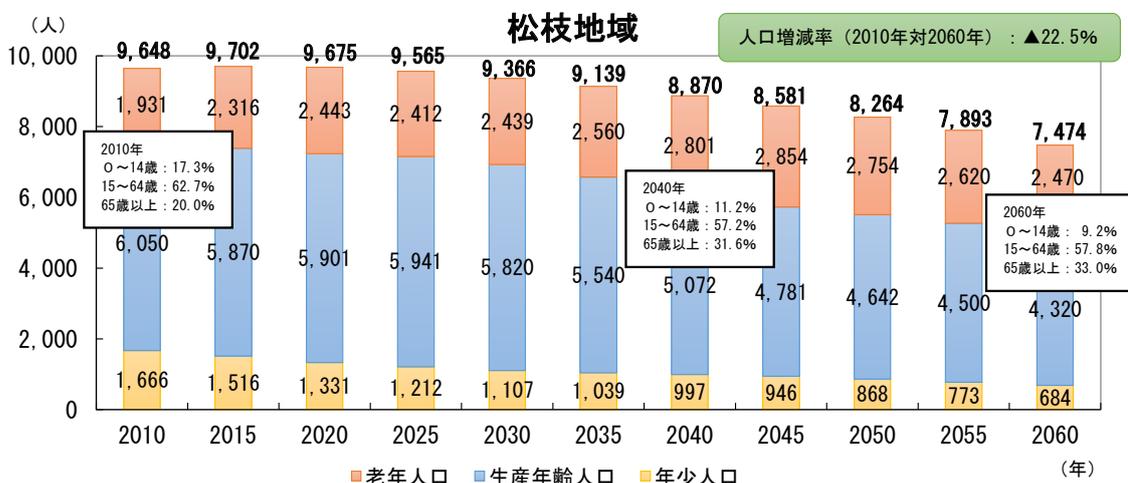


【出典: (2010) 総務省統計局「国勢調査」、(2015~2060) 社人研推計準拠により独自推計】

< 松枝地域 >

松枝地域は、3地域の中で最も総人口が多く、また人口構造の若い地域でもあります。

松枝地域の将来の総人口は、2020年まではほぼ横ばいで推移しますが、2025年以降は減少速度が加速します。また、老年人口はピークとなる2045年までの35年間で923人の増加が予測されています。



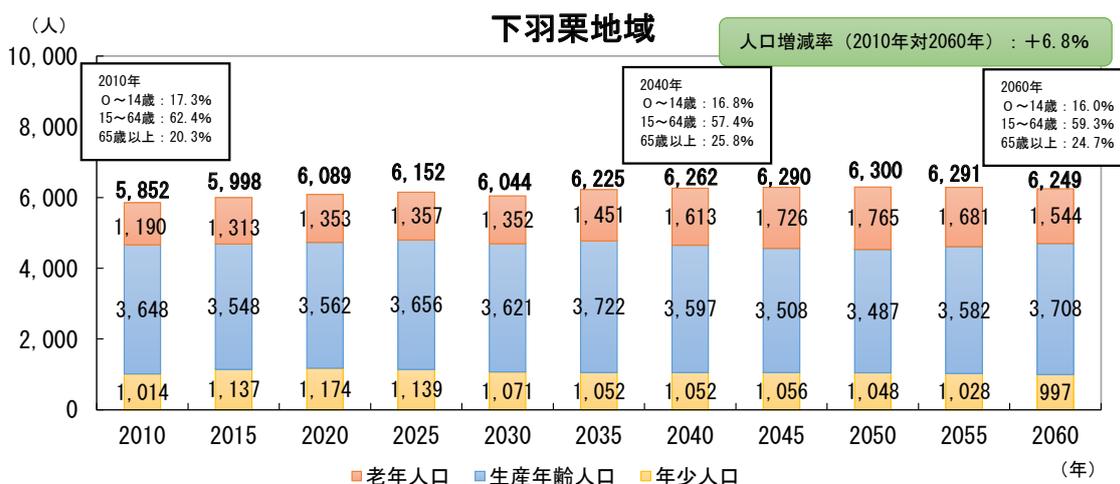
【出典: (2010) 総務省統計局「国勢調査」、(2015~2060) 社人研推計準拠により独自推計】



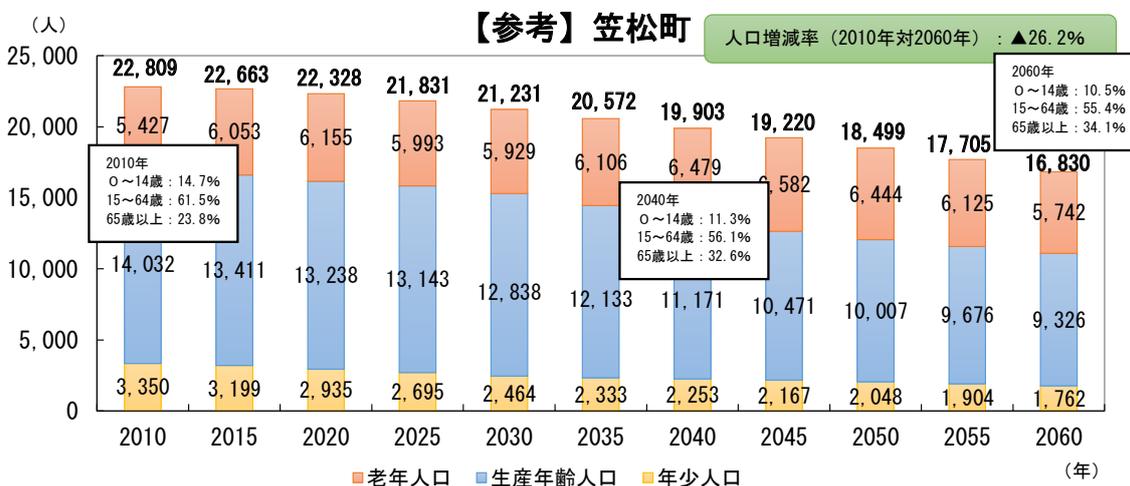
< 下羽栗地域 >

下羽栗地域は、総人口は最も少ない地域ですが、若年女性人口に対する出生数が最も多いという特徴があります。そのため、2010年（平成22年）の年少人口割合は17.3%と町平均の14.7%よりも2.6ポイントも上回っています。

下羽栗地域の将来人口推計は、他の2地域とは異なり、一定数の出生数が維持されるため、総人口が微増する推計となっています。



【出典：（2010）総務省統計局「国勢調査」、（2015～2060）社人研推計準拠により独自推計】



【出典：（2010）総務省統計局「国勢調査」、（2015～2060）社人研推計準拠により独自推計】



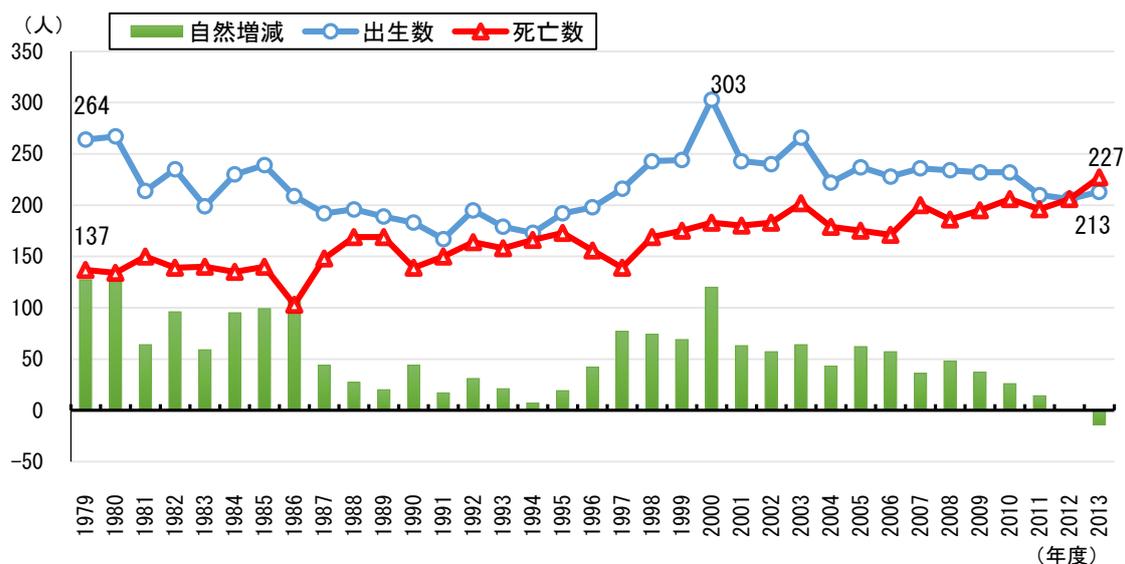
② 自然動態

1) 出生数、死亡数及び自然増減（出生数－死亡数）の推移

1979年度（昭和54年度）以降の笠松町の出生数をみると、1991年度（平成3年度）までは減少傾向にありましたが、翌年度から一転して増加し、2000年度（平成12年度）にピークとなる303人となりました。しかし、直近の2013年度（平成25年度）には213人と徐々に減少しています。

笠松町の死亡数をみると、1979年度（昭和54年度）からゆるやかな増加傾向にあり、直近の2013年度（平成25年度）には227人と、90人増加しました。

これを受けて、自然増減は、2011年度（平成23年度）までは自然増（自然増減がプラス）でしたが、2012年度（平成24年度）に自然増減がゼロとなり、2013年度（平成25年度）には初めて自然減（自然増減がマイナス）に転落しました。

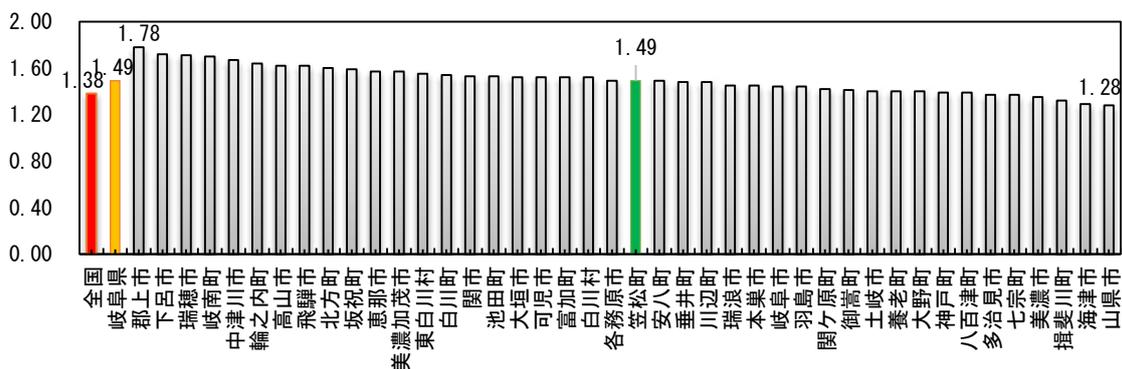
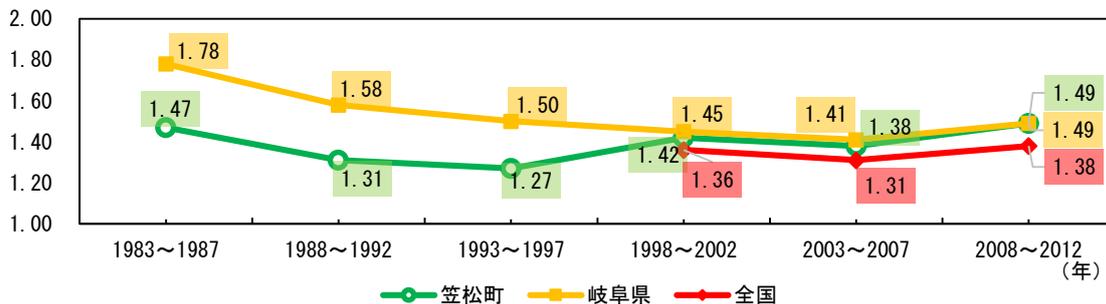


【出典：笠松町資料】

2) 合計特殊出生率の推移と比較

笠松町の合計特殊出生率は、1993～1997年（平成5～9年）を底に回復基調にあり、直近2008～2012年（平成20～24年）では1.49と前期比0.11上昇しました。笠松町の合計特殊出生率の推移を全国平均と岐阜県平均と比較すると、全国平均より高位ですが岐阜県平均より低位に推移しています。

なお、直近の合計特殊出生率を県内他市町村と比較すると、42市町村中22位で平均的な位置にあります。

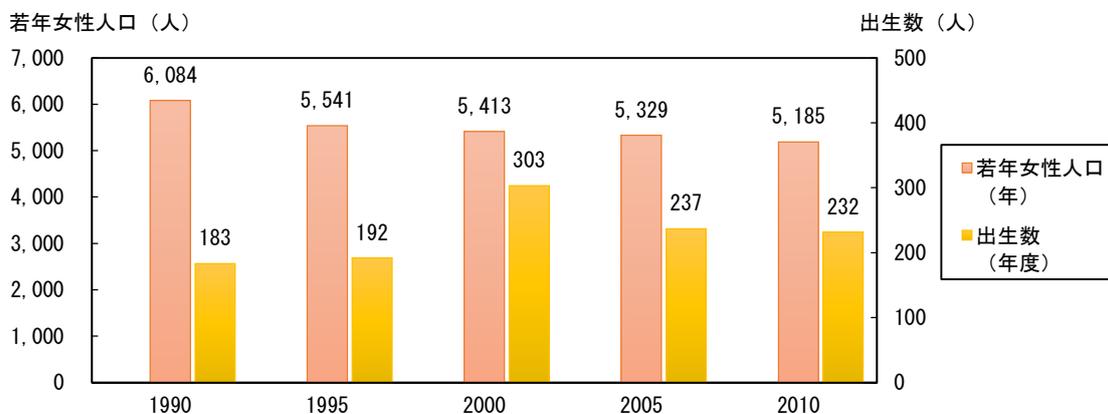


【出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」】

3) 若年女性人口（15～49歳）と出生数の推移

笠松町の若年女性人口は減少傾向にあり、1990年（平成2年）から2010年（平成22年）にかけての20年間で899人減少（14.8%減）しました。

一方で、出生数をみると、1990年度（平成2年度）以降の期間では、1990年度（平成2年度）の出生数が183人に対し、2010年度（平成22年度）の出生数が232人とゆるやかな増加傾向にあり、出生数の上昇が直近における合計特殊出生率の回復要因となっています。

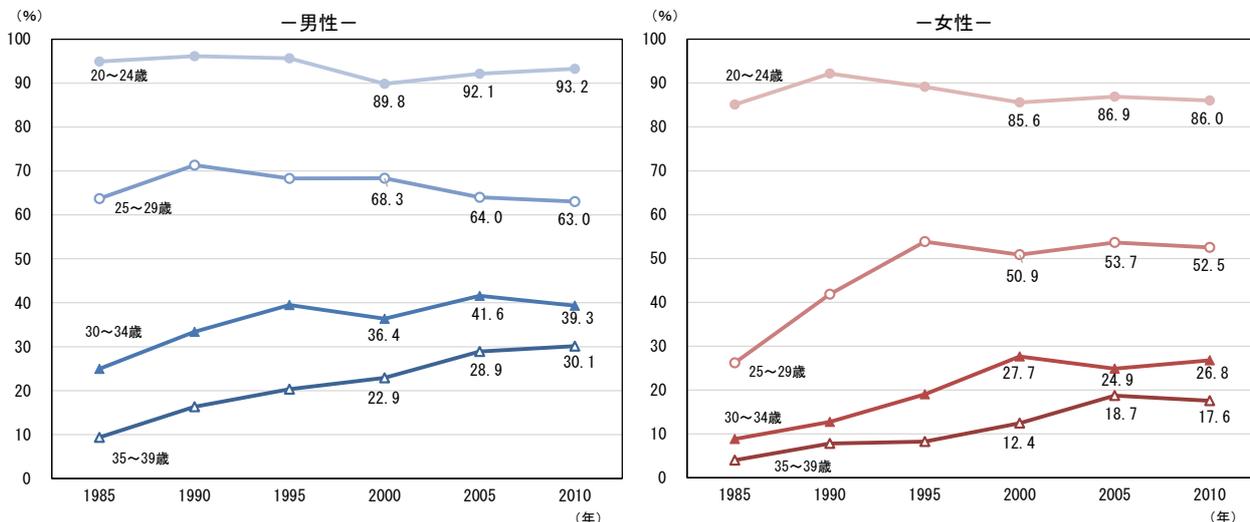


【出典：（若年女性人口）総務省統計局「国勢調査」、（出生数）笠松町資料】



4) 未婚率の推移

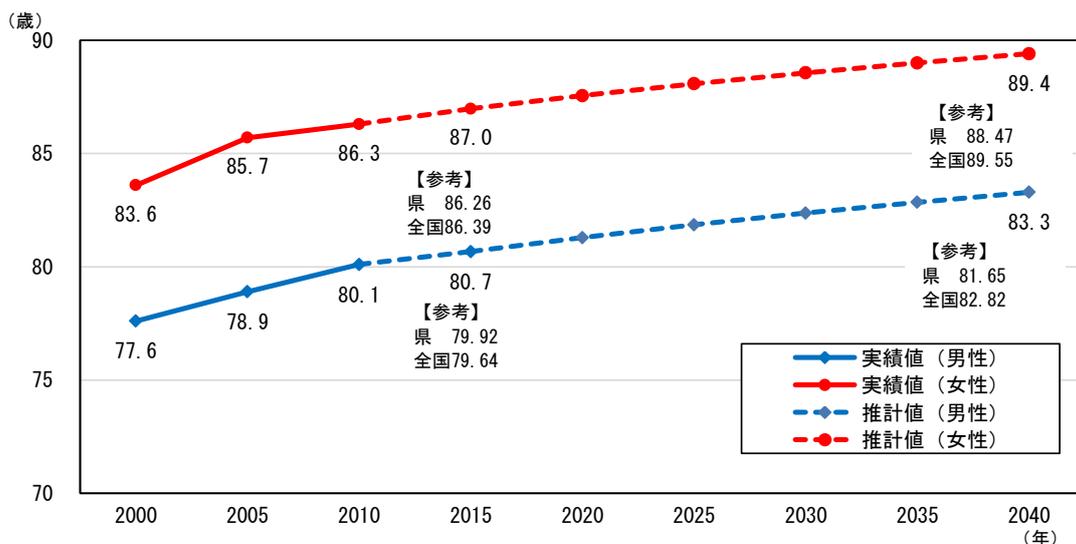
笠松町の性別の未婚率の推移をみると、30歳代の男女と20歳代後半の女性の増加が顕著に現れています。2010年（平成22年）では30歳代後半の男性の約3割が未婚の状況です。



【出典：総務省統計局「国勢調査」 ※配偶関係不詳を除いて算出している】

5) 平均寿命の推移と将来推計

笠松町の平均寿命は、2000年（平成12年）から2010年（平成22年）にかけて、男性は2.5歳、女性は2.7歳延長しています。全国の平均寿命の将来推計をもとに試算したところ、2040年における男性の平均寿命は83.3歳と2010年（平成22年）比3.2歳、女性の平均寿命は89.4歳と同3.1歳伸びる結果となっています。

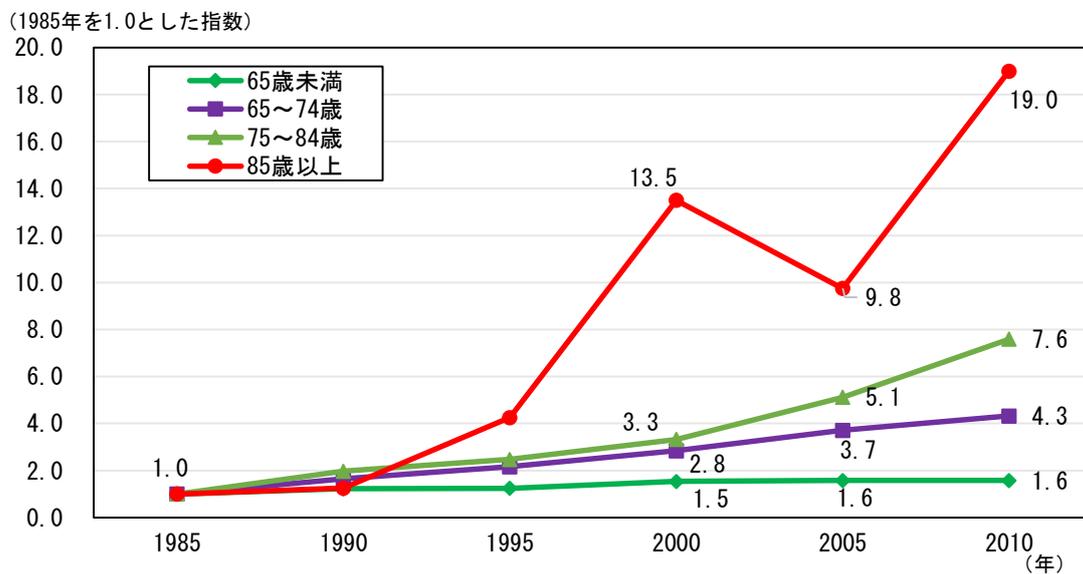
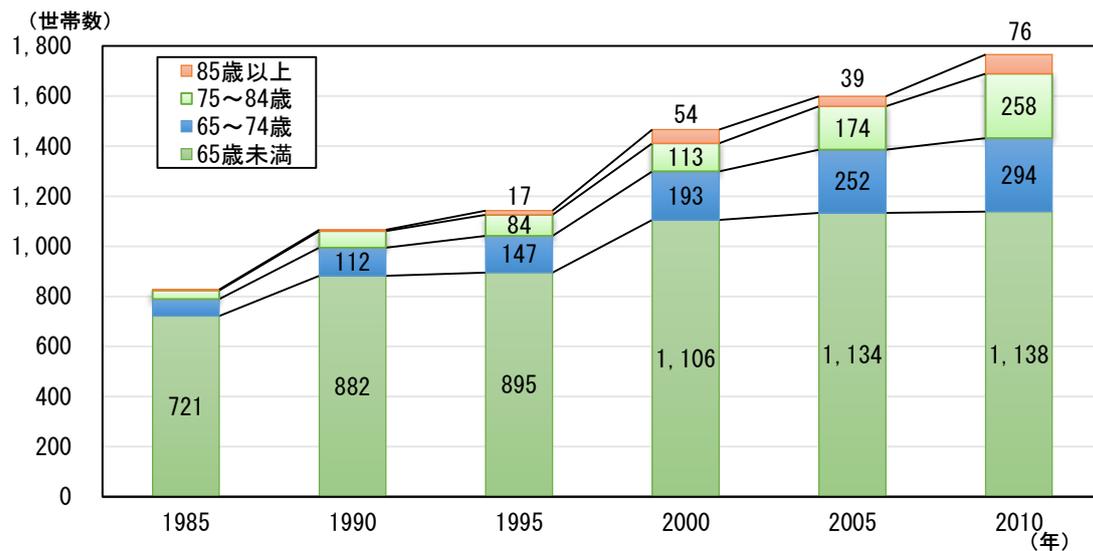


【出典：(2000~2010) 厚生労働省「市区町村生命表」、(2015~2040) 社人研推計準拠により独自推計】



6) 高齢者単独世帯数の推移

笠松町の単独世帯数を世帯主の年齢別で詳しくみると、65歳以上の高齢者単独世帯数が大幅に増加しています。2010年（平成22年）は、特に世帯主が75～84歳の世帯数が1985年（昭和60年）比約7.6倍、世帯主が85歳以上の世帯数が約19.0倍と、世帯主が後期高齢者の単独世帯数の増加が顕著に現れています。



【出典：総務省統計局「国勢調査」】

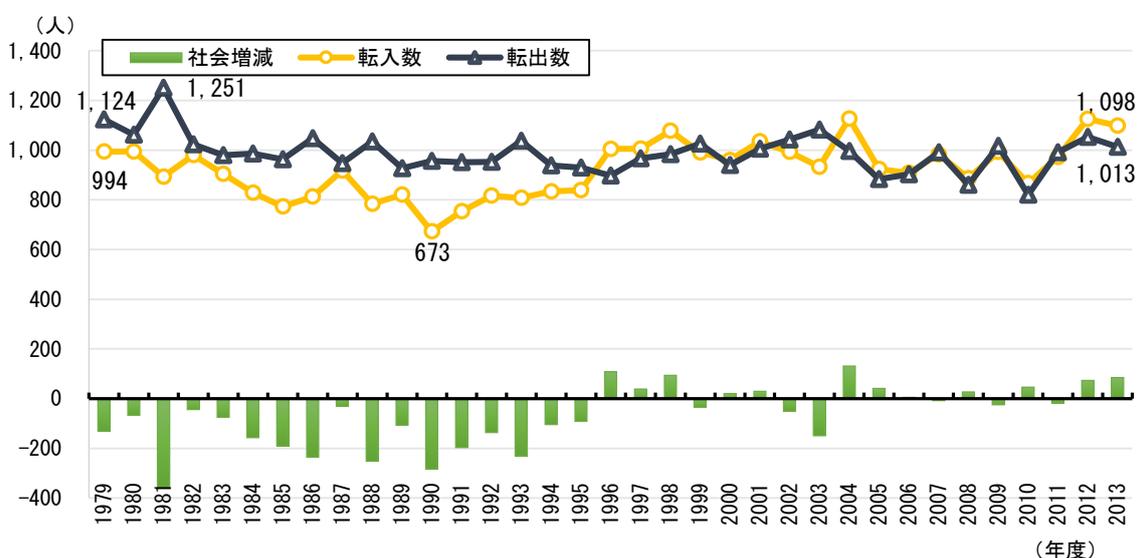


③ 社会動態

1) 転入数、転出数及び社会増減（転入数－転出数）の推移

笠松町の転入数は、1979年度（昭和54年度）から1990年度（平成2年度）にかけては減少傾向にありましたが、1991年度（平成3年度）以降2004年度（平成16年度）までは増加に転じました。一方の転出数は概ね900～1,100人の範囲で推移しています。

社会増減は、1995年度（平成7年度）までは社会減（社会増減がマイナス）でありましたが、1996年度（平成8年度）に社会増（社会増減がプラス）に転じ、以降は年度により状況が異なっています。



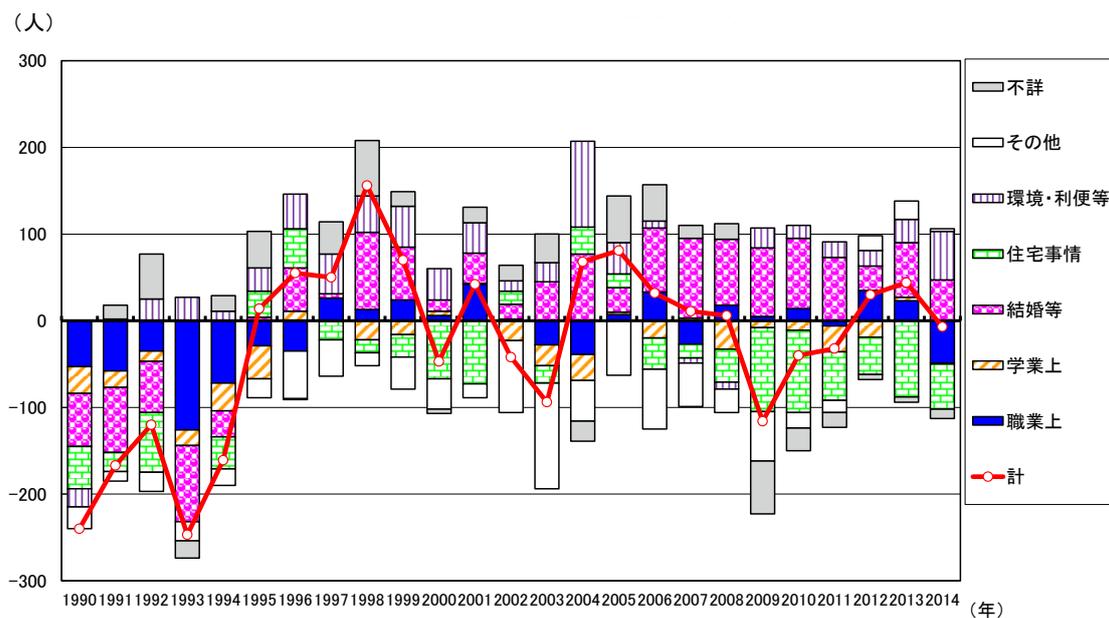
【出典：笠松町資料】

2) 移動理由別転入転出差の推移

笠松町の移動理由別転入転出差の推移をみると、1995年（平成7年）以降は「結婚等」を理由とした転入超過が続いています。

また、かつて多く見られた「職業上」の転出超過は改善し、近年は転出と転入が概ね均衡しています。

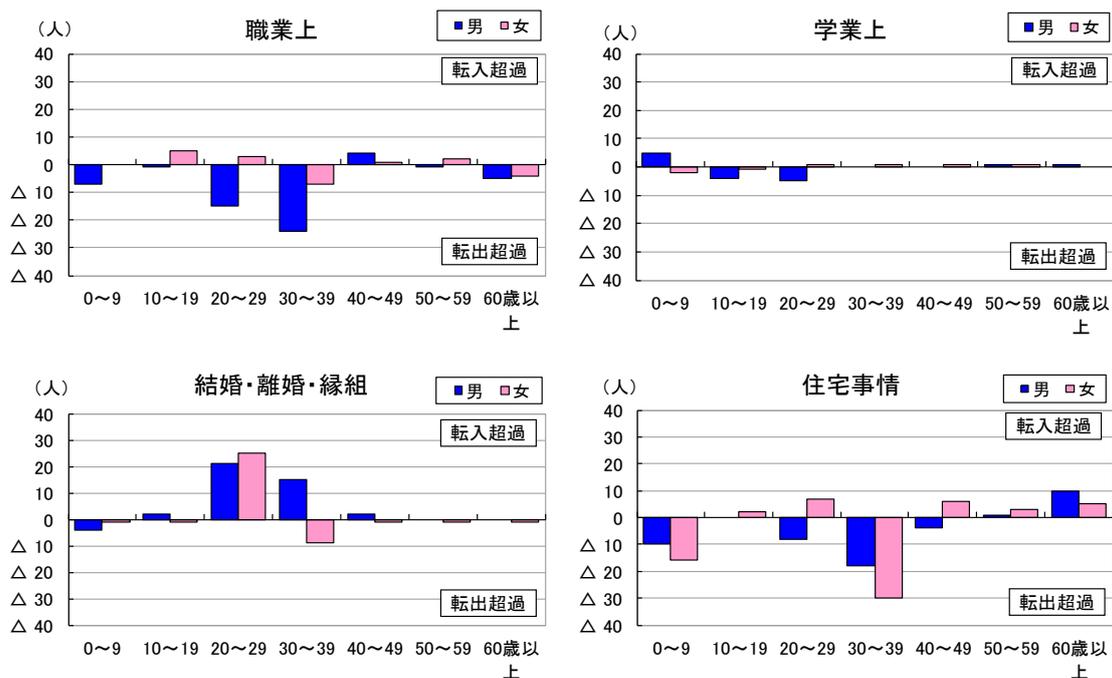
近年の転出理由は「住宅事情」が最も多いことも笠松町の特徴の一つです。



【出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」】

3) 主な移動理由でみた世代別の社会動態

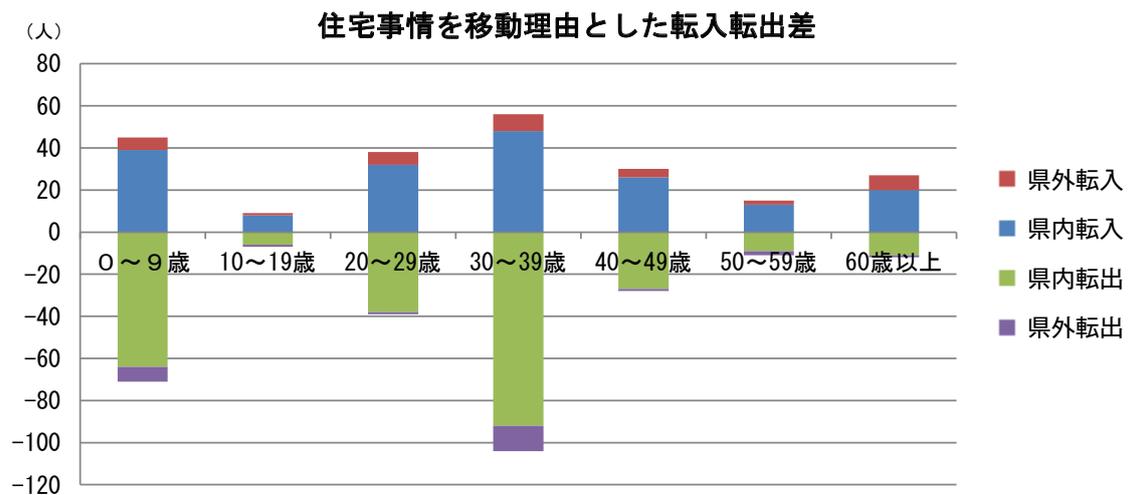
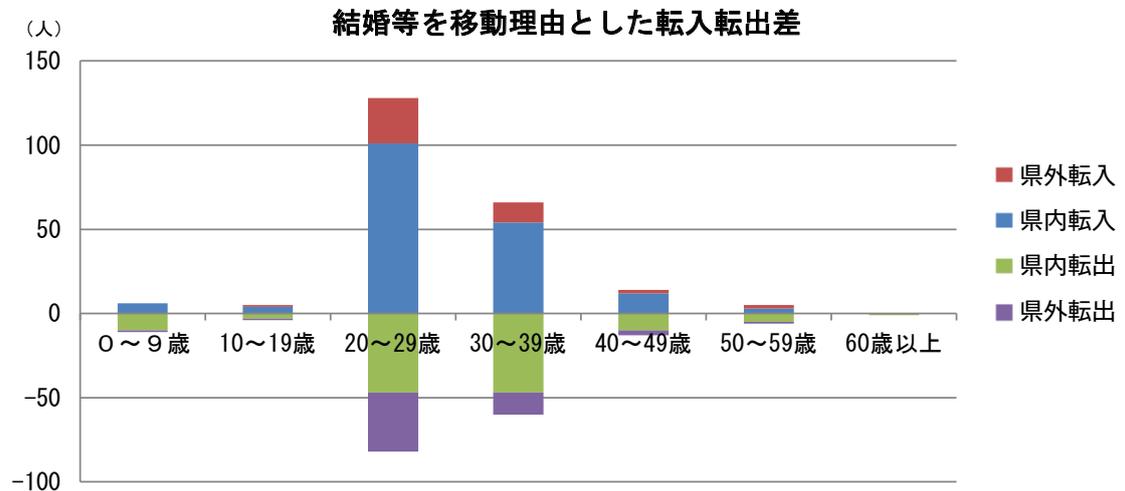
笠松町の2014年(平成26年)における社会動態を移動理由別で見ると、20歳代の男女及び30歳代の男性は、結婚等を理由とした転入が多い一方で、30歳代の住宅事情による転出超過が多く、子どもを伴って転出している状況がわかります。



【出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」 (外国人を除く日本人)】



転入転出差の大きい結婚等及び住宅事情を理由とした移動について、転入数（県内・県外）、転出数（県内・県外）を示したものが下のグラフです。グラフからは、主に県内から結婚等を理由に20歳代が転入していますが、30歳代で住宅事情により同じく県内に転出していることがわかります。

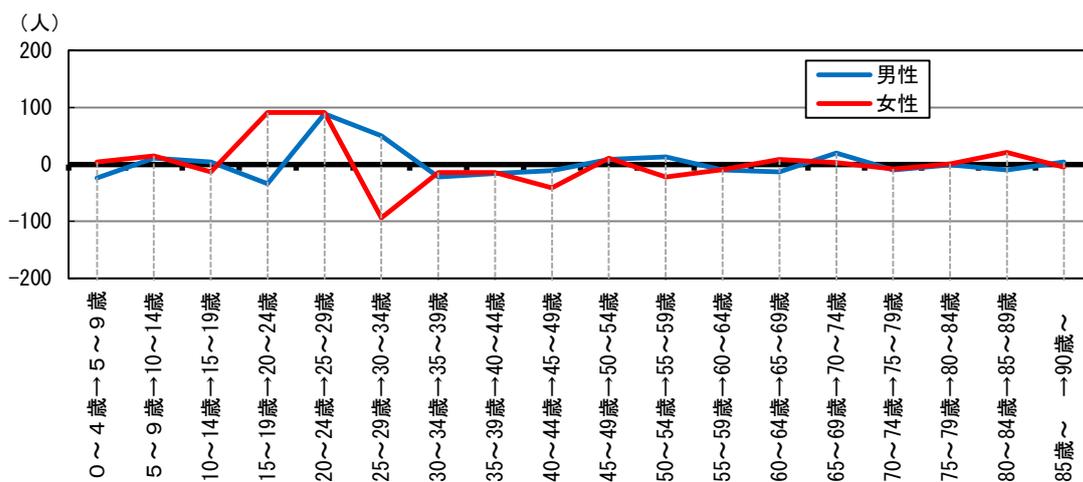


【出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」】



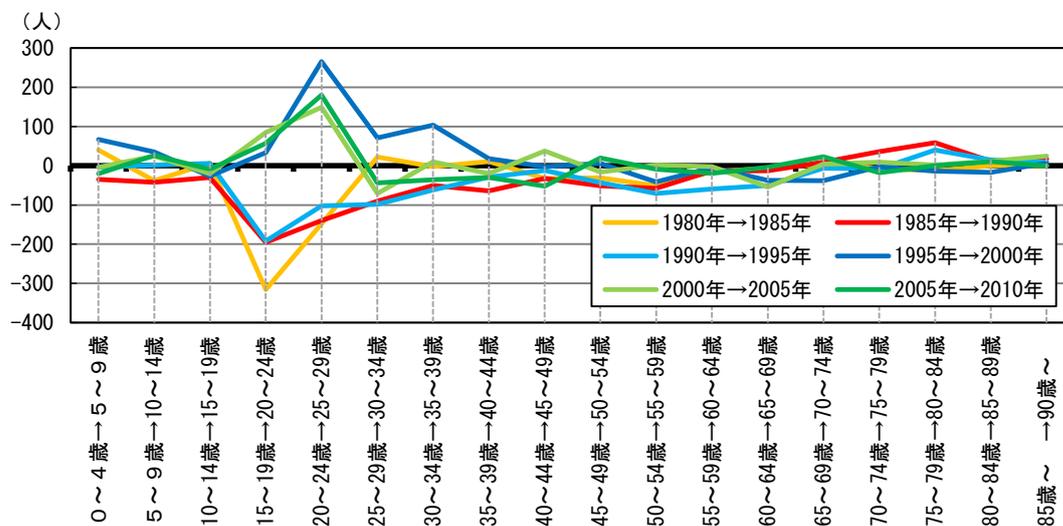
4) 年齢階級別の純移動数（転入数－転出数）

2005年（平成17年）と2010年（平成22年）の国勢調査をもとに、性別・年齢階級別の純移動数を計算したところ、笠松町の男性は20歳代後半から30歳代前半にかけての転入超過の幅が大きいものの、30歳代後半には転出超過へと転落していることがわかります。また、女性は20歳代にかけて大きな転入超過がありますが、30歳代から40歳代にかけては転出超過となっています。



【出典：総務省統計局「国勢調査」】

男女合計の年齢階級別の純移動数を時系列で見ると、かつては20歳代にかけて大きく転出超過となっていました。1995年（平成7年）→2000年（平成12年）以降に転入超過へと転じています。また、30歳代前半から40歳代にかけては概ね転出超過となっています。この年代は、消費意欲が旺盛で地域経済の活性化を支える年代であり、また地域社会の担い手でもあるため、この年代の転出を抑制することが重要と考えられます。



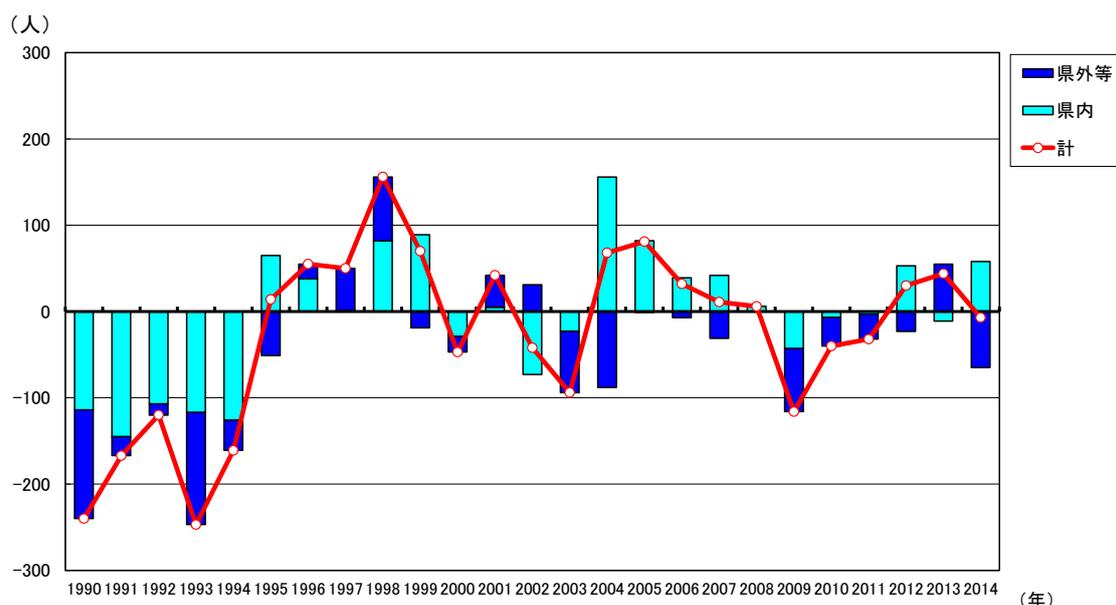
【出典：総務省統計局「国勢調査」】



5) 県内・県外等別転入転出差の推移

笠松町の県内・県外等別転入転出差は、1994年（平成6年）までは県内・県外等ともに転出超過でしたが、1995年（平成7年）に県内からは転入超過に転じ、県外等からの転出超過を上回り、全体として転入超過となっています。

また、1996年（平成8年）以降は、年により県内・県外等ともに転入転出の状況が変わっています。



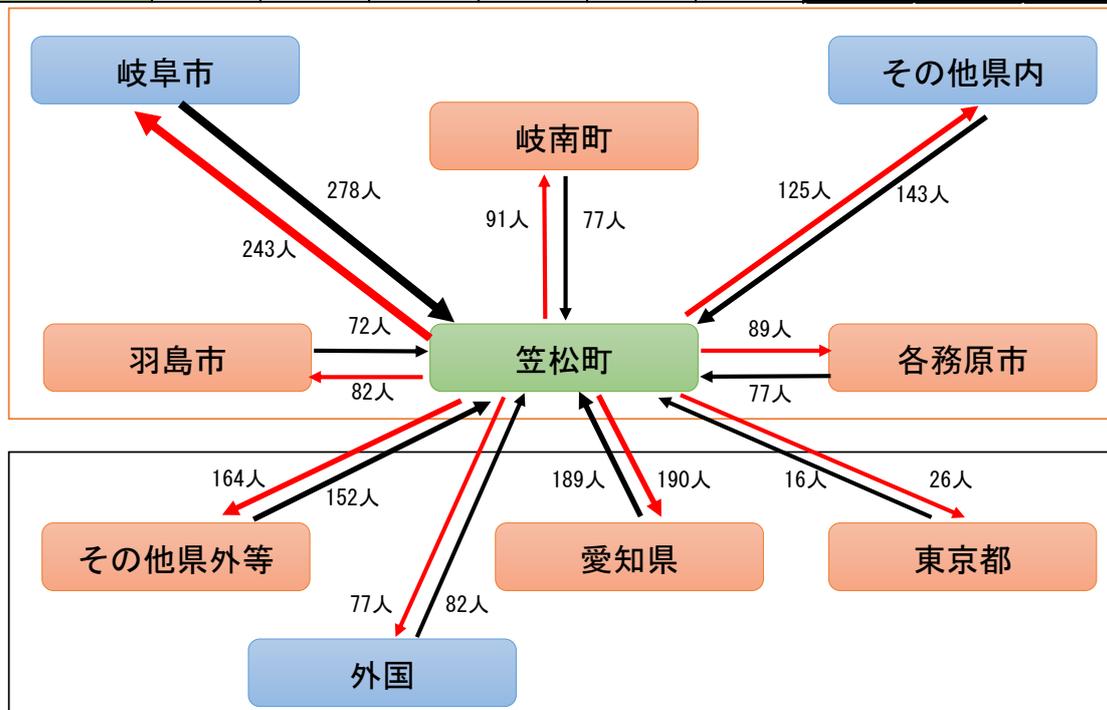
【出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」】

6) 市町村別転入転出差の推移

笠松町の市町村別転入転出のうち、県内の転入転出の約4割は岐阜市との移動であり、2011年（平成23年）を除き岐阜市からは転入超過となっています。笠松町の県外等の転入転出は約4割が愛知県です。ただし、外国との転入転出は変動が大きく、笠松町の社会増減に大きな影響を与えています。



| | 2010 | | | 2011 | | | 2012 | | |
|--------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
| | 転入 | 転出 | 差 | 転入 | 転出 | 差 | 転入 | 転出 | 差 |
| 総計 | 1,021 | 1,061 | -40 | 1,098 | 1,130 | -32 | 1,072 | 1,042 | 30 |
| 県内合計 | 601 | 608 | -7 | 622 | 625 | -3 | 653 | 600 | 53 |
| 岐阜市 | 243 | 234 | 9 | 265 | 269 | -4 | 288 | 225 | 63 |
| 岐南町 | 56 | 58 | -2 | 76 | 86 | -10 | 71 | 107 | -36 |
| 羽島市 | 53 | 74 | -21 | 73 | 66 | 7 | 76 | 84 | -8 |
| 各務原市 | 86 | 107 | -21 | 71 | 98 | -27 | 82 | 75 | 7 |
| その他県内 | 163 | 135 | 28 | 137 | 106 | 31 | 136 | 109 | 27 |
| 県外等合計 | 420 | 453 | -33 | 476 | 505 | -29 | 419 | 442 | -23 |
| 愛知県 | 191 | 171 | 20 | 220 | 208 | 12 | 165 | 199 | -34 |
| 東京都 | 20 | 21 | -1 | 26 | 31 | -5 | 10 | 26 | -16 |
| 三重県 | 10 | 14 | -4 | 21 | 11 | 10 | 15 | 13 | 2 |
| 大阪府 | 8 | 15 | -7 | 13 | 7 | 6 | 11 | 15 | -4 |
| その他道府県 | 102 | 103 | -1 | 111 | 106 | 5 | 117 | 111 | 6 |
| 外国 | 83 | 123 | -40 | 82 | 139 | -57 | 90 | 65 | 25 |
| 不詳 | 6 | 6 | 0 | 3 | 3 | 0 | 11 | 13 | -2 |
| | 2013 | | | 2014 | | | 5年平均 | | |
| | 転入 | 転出 | 差 | 転入 | 転出 | 差 | 転入 | 転出 | 差 |
| 総計 | 1,176 | 1,132 | 44 | 1,067 | 1,074 | -7 | 1,087 | 1,088 | -1 |
| 県内合計 | 688 | 699 | -11 | 671 | 613 | 58 | 647 | 629 | 18 |
| 岐阜市 | 294 | 246 | 48 | 300 | 242 | 58 | 278 | 243 | 35 |
| 岐南町 | 91 | 114 | -23 | 91 | 89 | 2 | 77 | 91 | -14 |
| 羽島市 | 84 | 78 | 6 | 73 | 107 | -34 | 72 | 82 | -10 |
| 各務原市 | 77 | 103 | -26 | 70 | 60 | 10 | 77 | 89 | -11 |
| その他県内 | 142 | 158 | -16 | 137 | 115 | 22 | 143 | 125 | 18 |
| 県外等合計 | 488 | 433 | 55 | 396 | 461 | -65 | 440 | 459 | -19 |
| 愛知県 | 206 | 187 | 19 | 165 | 187 | -22 | 189 | 190 | -1 |
| 東京都 | 12 | 30 | -18 | 11 | 21 | -10 | 16 | 26 | -10 |
| 三重県 | 20 | 27 | -7 | 14 | 12 | 2 | 16 | 15 | 1 |
| 大阪府 | 8 | 10 | -2 | 17 | 10 | 7 | 11 | 11 | 0 |
| その他道府県 | 137 | 91 | 46 | 124 | 116 | 8 | 118 | 105 | 13 |
| 外国 | 99 | 21 | 78 | 58 | 39 | 19 | 82 | 77 | 5 |
| 不詳 | 6 | 67 | -61 | 7 | 76 | -69 | 7 | 33 | -26 |



【出典：岐阜県「岐阜県人口動態統計調査」※平均は四捨五入のため転入数－転出数と差が一致しない】



7) 性別・通勤地域別 15 歳以上の就業者数 (2010 年 (平成 22 年))

笠松町に常住する就業者のうち、町内へ通勤している人は、3,489 人 (32.6%) であり男性より女性の割合が高い状況です。

県内他市町村へ通勤している人は、全体の 5 割近い 5,073 人であり、そのうち半数以上が岐阜市に通勤しています。また、県内の隣接市町である岐阜市・岐南町・各務原市・羽島市へ通勤している人の合計は、全体の約 4 割程度の 4,383 人です。なお、県外の通勤地域は愛知県がほとんどです。

この結果から、笠松町が県都岐阜市や中部経済の中心地である名古屋市への交通アクセスがよく、ベッドタウンとしての機能を担っている一方で、特に女性は笠松町を中心に隣接市町で働いていることがわかります。

| | 総数 | | 男性 | | 女性 | |
|-------------|--------|---------|-------|---------|-------|---------|
| 笠松町に常住する就業者 | 10,700 | (100.0) | 5,978 | (100.0) | 4,722 | (100.0) |
| 町内 | 3,489 | (32.6) | 1,677 | (28.1) | 1,812 | (38.4) |
| 県内他市町村 | 5,073 | (47.4) | 2,812 | (47.0) | 2,261 | (47.9) |
| 岐阜市 | 2,652 | (24.8) | 1,337 | (22.4) | 1,315 | (27.8) |
| 岐南町 | 629 | (5.9) | 299 | (5.0) | 330 | (7.0) |
| 各務原市 | 620 | (5.8) | 391 | (6.5) | 229 | (4.8) |
| 羽島市 | 482 | (4.5) | 242 | (4.0) | 240 | (5.1) |
| その他県内 | 690 | (6.4) | 543 | (9.1) | 147 | (3.1) |
| 県外 | 1,891 | (17.7) | 1,324 | (22.1) | 567 | (12.0) |
| 愛知県 | 1,851 | (17.3) | 1,288 | (21.5) | 563 | (11.9) |
| 名古屋市 | 769 | (7.2) | 542 | (9.1) | 227 | (4.8) |
| 一宮市 | 504 | (4.7) | 265 | (4.4) | 239 | (5.1) |
| その他愛知県 | 578 | (5.4) | 481 | (8.0) | 97 | (2.1) |
| その他県外 | 40 | (0.4) | 36 | (0.6) | 4 | (0.1) |
| 不詳 | 247 | (2.3) | 165 | (2.8) | 82 | (1.7) |

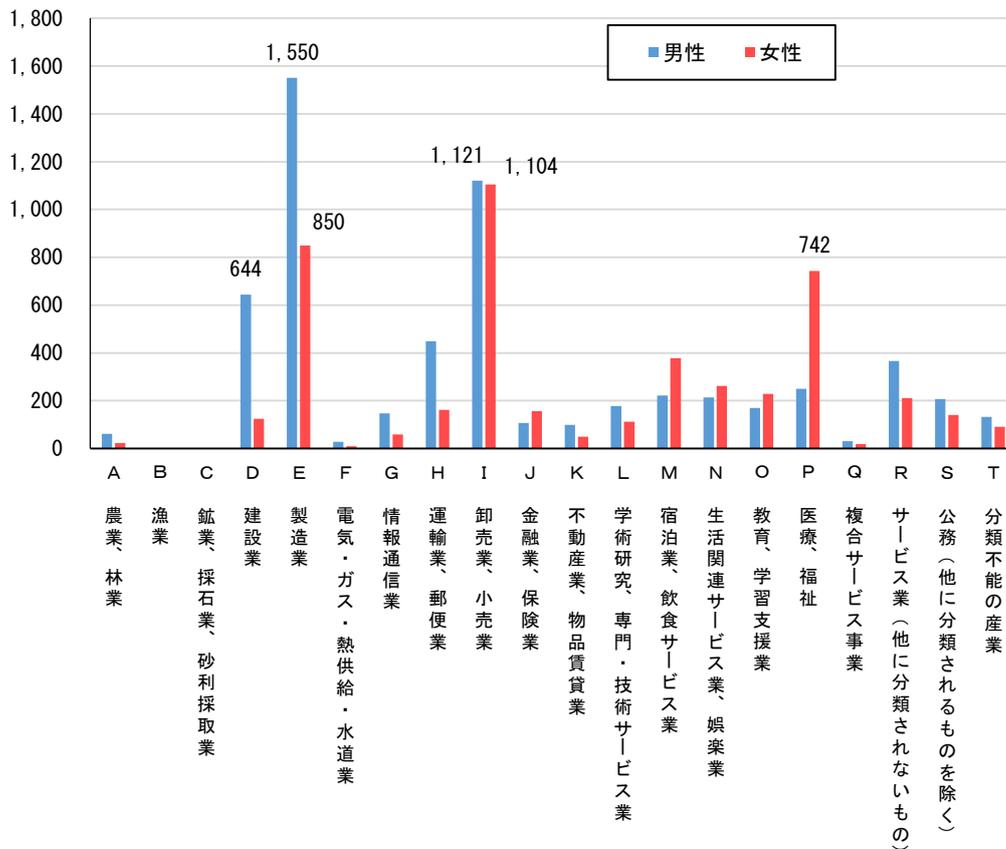
【出典：総務省統計局「国勢調査」】



8) 性別・産業別 15 歳以上の就業者数 (2010 年 (平成 22 年))

笠松町に常住する男性就業者の上位 3 産業は、「製造業 (1,550 人)」、「卸売業、小売業 (1,121 人)」、「建設業 (644 人)」です。他方、常住する女性就業者の上位 3 産業は、「卸売業、小売業 (1,104 人)」、「製造業 (850 人)」、「医療、福祉 (742 人)」です。

笠松町は「医療、福祉」における女性就業者数が多いことが特徴的です。



【出典：総務省統計局「国勢調査」】



(2) 将来人口の推計と分析

① 自然増減及び社会増減の影響度の分析

笠松町の将来人口に及ぼす、自然増減及び社会増減の影響度を分析するために、2014年（平成26年）10月20日付で内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局より公表された「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について」に基づき、仮定値を変えた以下の3パターンの将来人口の推計を行います。

1) 将来人口推計のパターン

パターン①：社人研推計準拠

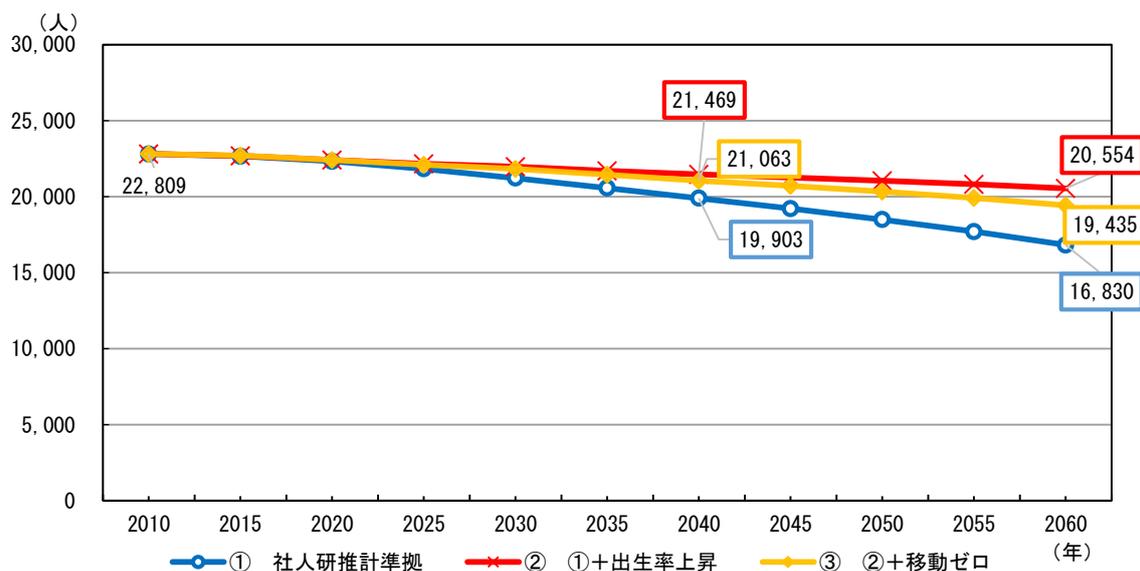
パターン②：パターン①＋出生率上昇

(2030年までに合計特殊出生率が2.1まで上昇)

パターン③：パターン②＋移動ゼロ

(2030年までに転入数と転出数が均衡)

【推計結果】



2) 影響度の結果

自然増減及び社会増減の影響度を5段階評価で実施します。なお、影響度の数字が大きいほど、対策の効果が大きいことを示しています。

これにより、笠松町の自然増減の影響度は「3」、社会増減の影響度は「1」という分析結果になりました。だからといって、自然減少対策のみで人口減少を抑制できるかと言えばそうではなく、自然減少対策と社会減少対策の両方の対策が必要となります。



<自然増減の影響度>

パターン②の2040年の推計人口／パターン①の2040年の推計人口の数値に応じて、以下の5段階に整理します。

| |
|---|
| 影響度 1 : 100%未満、影響度 2 : 100~105%、影響度 3 : 105~110%、 影響度 4 : 110~115%、影響度 5 : 115%以上の増加 |
|---|

<社会増減の影響度>

パターン③の2040年の推計人口／パターン②の2040年の推計人口の数値に応じて、以下の5段階に整理します。

| |
|---|
| 影響度 1 : 100%未満、影響度 2 : 100~110%、影響度 3 : 110~120%、 影響度 4 : 120~130%、影響度 5 : 130%以上の増加 |
|---|

| 分類 | 計算方法 | | | 影響度 |
|----------|-----------------|---|--------------|-----|
| 自然増減の影響度 | パターン②の2040年推計人口 | = | 21,469 (人)…A | 3 |
| | パターン①の2040年推計人口 | = | 19,903 (人)…B | |
| | A/B | = | 107.9 % | |
| 社会増減の影響度 | パターン③の2040年推計人口 | = | 21,063 (人)…C | 1 |
| | パターン②の2040年推計人口 | = | 21,469 (人)…D | |
| | C/D | = | 98.1 % | |

3) 影響度の結果の県内他市町村との比較

笠松町は、美濃加茂市や岐南町等の転入超過の市町と同じ影響度となります。

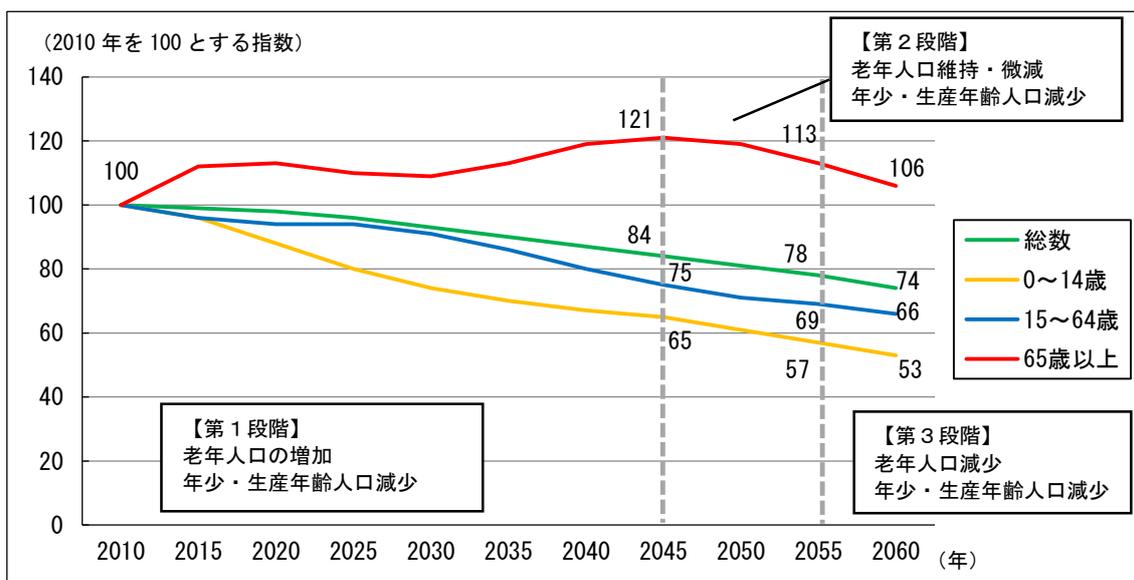




② 人口減少段階の分析

「人口減少段階」は、一般的に「第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）」、「第2段階：老年人口の維持・微減」及び「第3段階：老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされています。

社人研の推計によれば、笠松町の人口減少段階は2045年までは「第1段階」、2045年から2055年にかけて「第2段階」、2055年以降は「第3段階」で推移することになります。





(3) 人口の変化が笠松町の将来に与える影響の分析・考察

① 小売店等民間便利施設の進出・撤退の状況

一般的に、民間企業が新店舗の進出地域を決定する際には、ターゲットとなる人口集積や同業他社の進出状況等商圈分析を実施します。また、既出店店舗でも同様に商圈分析により撤退判断や商品の品揃えを決定します。

例えば、笠松町の出生数の減少に歯止めがかからなければ、乳幼児向けの商品を取り扱う店舗が少なくなり、子育て環境が悪化し、さらに出生数の減少が加速する等の悪循環が生じる懸念があります。

② 笠松町の産業における人材（人手）の過不足の状況

全国的な生産年齢人口の減少が進行する中、笠松町は雇用吸収力の低い地方都市に当たり、特に建設業やサービス業等で人材不足が顕在化しており、将来的にさらに深刻化することが予想されます。

また、家族経営の中小企業や農家等においては、高齢化と後継者不足により、廃業を余儀なくされ、産業の空洞化が生じる懸念があります。

一方、高齢者や後期高齢者の増加により、介護人材の需要が高まるものの、十分な雇用が確保できるかが不透明であり、「介護離職」の増加に繋がることも想定されます。

③ 公共施設の維持管理・更新等への影響

人口減少により公共施設の利用者が減少する一方、人口減少を受けた税収減少により、公共施設の維持管理・更新費用が笠松町の行政運営に深刻な影響を与えかねません。

公共施設の集約・複合化の議論が必要となりますが、慎重な議論や丁寧な町民説明の実施なくしては、町民サービスの低下を招き、転出者が増加してしまうリスクがあります。

④ 社会保障等の財政需要、税収等の増減による財政状況への影響

高齢者の増加により、社会福祉費、老人福祉費等の扶助費が増加し、町民負担及び行政負担が増加することが見込まれます。

また、扶助費以外の費目として、例えば、高齢者増加に伴う高齢者対応職員増による人件費・物件費（民間委託等）の増加、高齢者向け施設等の整備による普通建設事業費の増加等も考えられます。



3 笠松町の将来展望

(1) 調査にみられる町民意識

① 町民意識調査

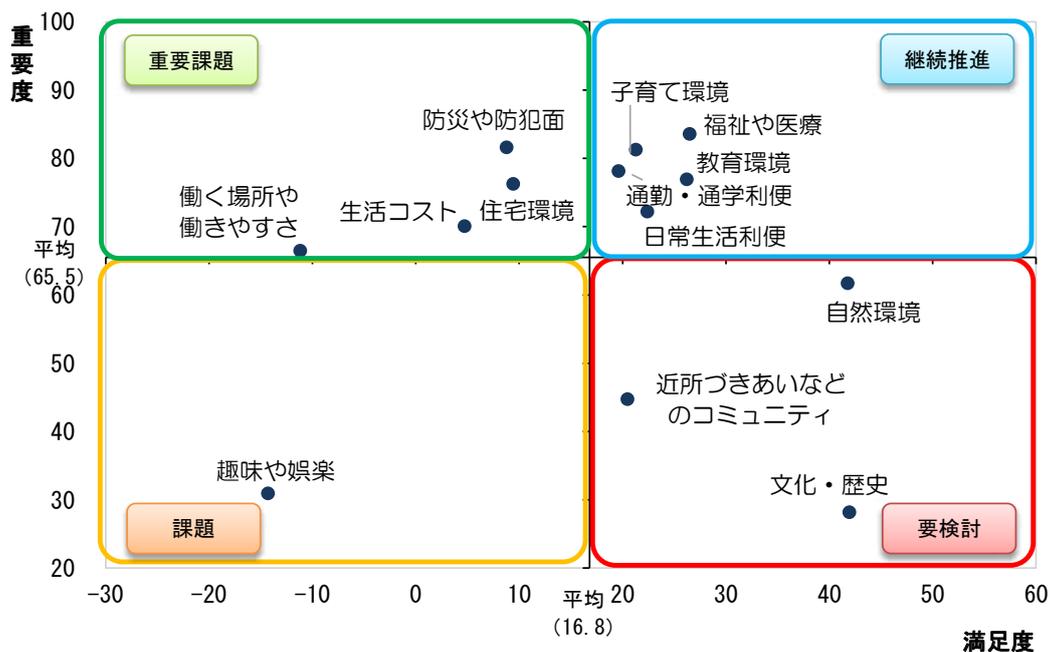
1) 調査の概要

| | |
|-------|-------------------------|
| 調査の目的 | 笠松町民が日頃感じている思いや意見等を把握する |
| 調査対象 | 16歳以上の町民から無作為に1,000人を抽出 |
| 調査期間 | 平成27年7月8日～7月21日 |
| 調査方法 | 郵送にて配布・郵送にて回収 |
| 回収数 | 371通（回収率37.1%） |

2) 調査結果の概要

○ 現在の笠松町の満足度、今後の笠松町にとっての重要度

- ・笠松町の重要課題（町民の満足度が低く、重要度が高い項目）は、「働く場所や働きやすさ」、「生活コスト」、「防災や防犯面」、「住宅環境」が挙げられています。
- ・笠松町民から評価を得ている施策（町民の満足度が高く、重要度も高い項目）は、「子育て環境」、「通勤・通学利便」、「日常生活利便」、「教育環境」、「福祉や医療」です。





- 笠松町民の結婚・妊娠・出産・子育てに関する意識
 - ・未婚者のうち約74%の人は結婚希望がありました。
 - ・約7割の笠松町民が、笠松町が出産・子育てしやすい環境であると評価しています。
 - ・笠松町民の希望出生率は『1.747』となりました。
 - ・笠松町の「出産支援」の取り組みに関する認知度は約21%です。利用したことがある人となると11%程度となりました。知ってはいるが利用しなかった人の理由は、「求めているサービスがない(約30%)」、「手続きが煩雑である(約22%)」、「利用のしかたがわからない(約19%)」というものでした。
 - ・笠松町の「子育て支援」の取り組みに関する認知度は約32%と「出産支援」の取り組みよりは認知度が高い結果でした。
 - ・笠松町の出産・子育て環境整備のために望んでいること(複数回答)は、「経済的支援」が約36%と最も多く、「保育施設の充実」、「医療機関(育児)の充実」、「治安の維持」、「公園・グラウンド等の充実」が3割超の回答です。
 - ・笠松町の保育施設に望んでいることの上位回答は、「延長保育の時間延長(約41%)」、「定員の拡充(約37%)」、「休日保育の拡充(約34%)」等でした。

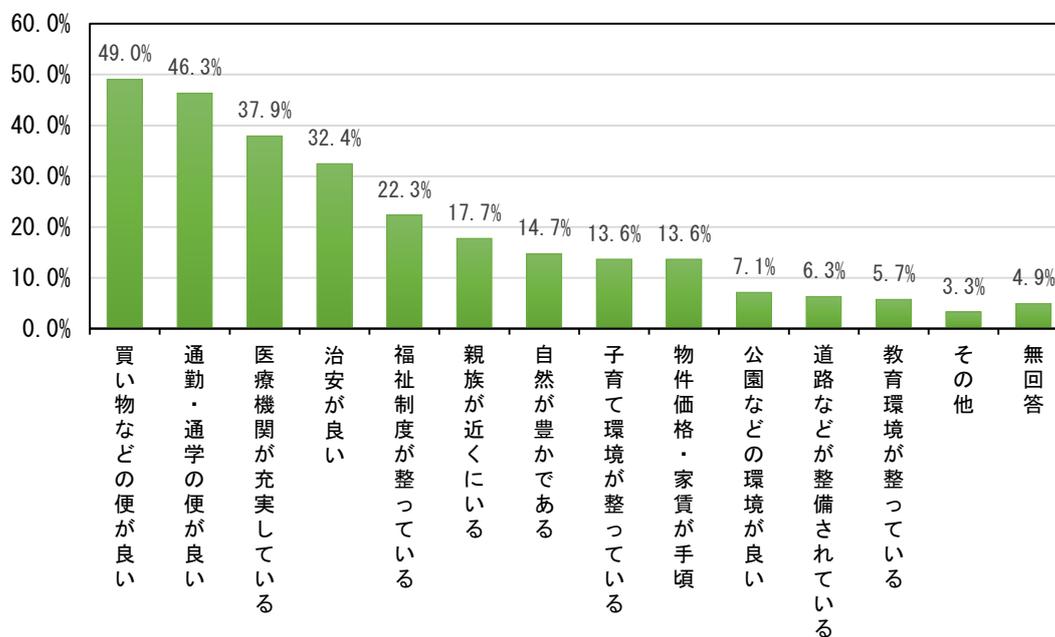
- 過去10年以内に笠松町へ転入した町民の意識
 - ・笠松町に転入したきっかけは、「住宅購入・借換」が約28%、「仕事の都合」が約20%で、2つの回答で半数近くを占めています。
 - ・転入先に笠松町を選んだ理由(複数回答)は、「通勤・通学の便が良い(約49%)」が圧倒的に多い結果でした。

- 定住に関する町民の意識
 - ・笠松町に住み続けたい町民は約83%、一方で転出を検討もしくは転出予定がある町民は約16%でした。
 - ・転出したい(する)理由(複数回答)の最多回答は「仕事の都合(約26%)」でしたが、第2位の回答は「まちに賑わいがない(約21%)」でした。
 - ・定住地を選ぶ理由は、「買い物などの便が良い」、「通勤・通学の便が良い」、「医療機関が充実している」、「治安が良い」が上位回答です。20~30歳代に限ってみると「子育て環境が整っている」が上位に並んでいます。

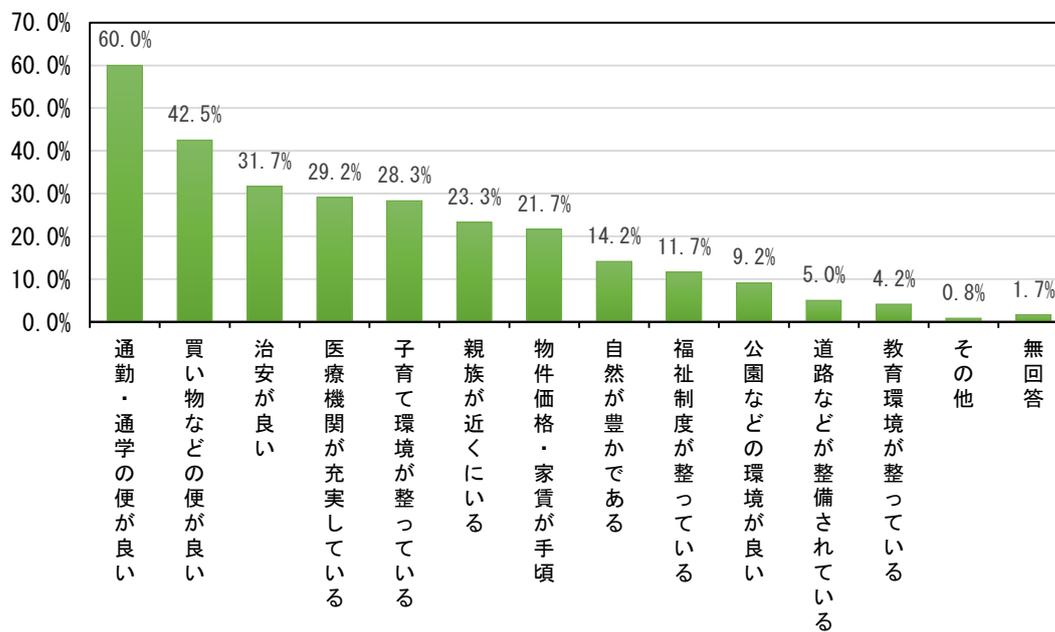


(定住地を選ぶ理由)

〔回答者全員（回答数371）〕



〔20～30歳代（回答数121）〕





② 児童・生徒意識調査

1) 調査の概要

| | |
|-------|---|
| 調査の目的 | 町内小中学生の笠松町に対する思いや意見等を把握する |
| 調査対象 | 町内の各小中学校に在籍する小学6年生及び中学生 |
| 調査期間 | 平成27年7月7日～7月13日 |
| 調査方法 | 各小中学校にて配布・回収 |
| 回収数 | 875通 (内訳) 小学6年生199人、中学1年生222人 中学2年生221人、中学3年生233人 |

2) 調査結果の概要

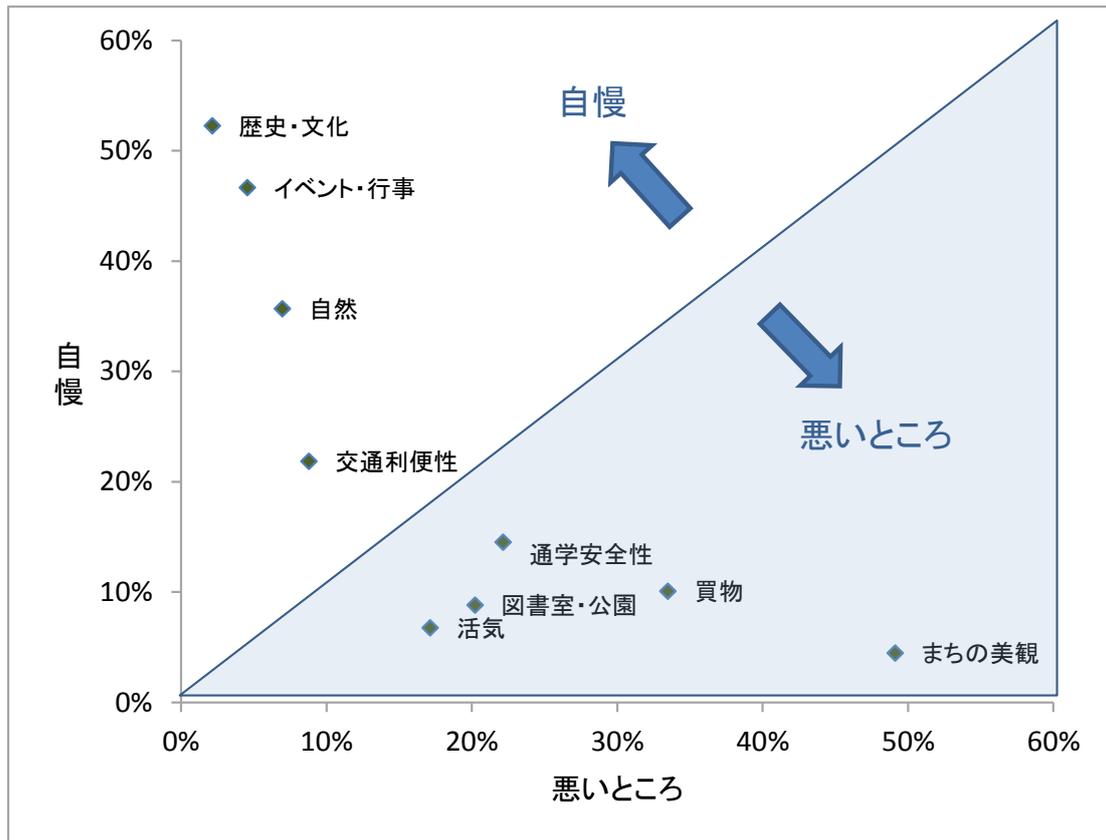
○ 笠松町の暮らしやすさ・笠松町に住み続けたいか

- ・笠松町が「暮らしやすい」、「まあ暮らしやすい」と回答した児童・生徒は82.9%でした。
- ・中学3年生233人の回答では、「暮らしやすい」と「まあ暮らしやすい」の合計は65.4%であり、平成21年に実施した中学3年生184人に対する意識調査（前回調査）における同じ質問の結果と比べると0.7ポイント増加しています（64.7%→65.4%）。
- ・笠松町に「ずっと住み続けたい」、「できれば住み続けたい」と回答した児童・生徒は53.9%でした。
- ・同様に中学3年生の回答は「ずっと住み続けたい」と「できれば住み続けたい」の合計は前回調査と比べると20.2ポイント増加していますが（26.6%→46.8%）、過半数以下となっています。



○ 笠松町の自慢・悪いところ

- ・笠松町の自慢は、「歴史・文化・伝統」が最多回答で、「イベント・行事」、「河川など自然」という回答が続いています。
- ・一方で笠松町の悪いところとして、「ごみがないまち(=ごみがある)」を49.5%の児童・生徒が回答しました。





○ 笠松町が取り組むべきこと

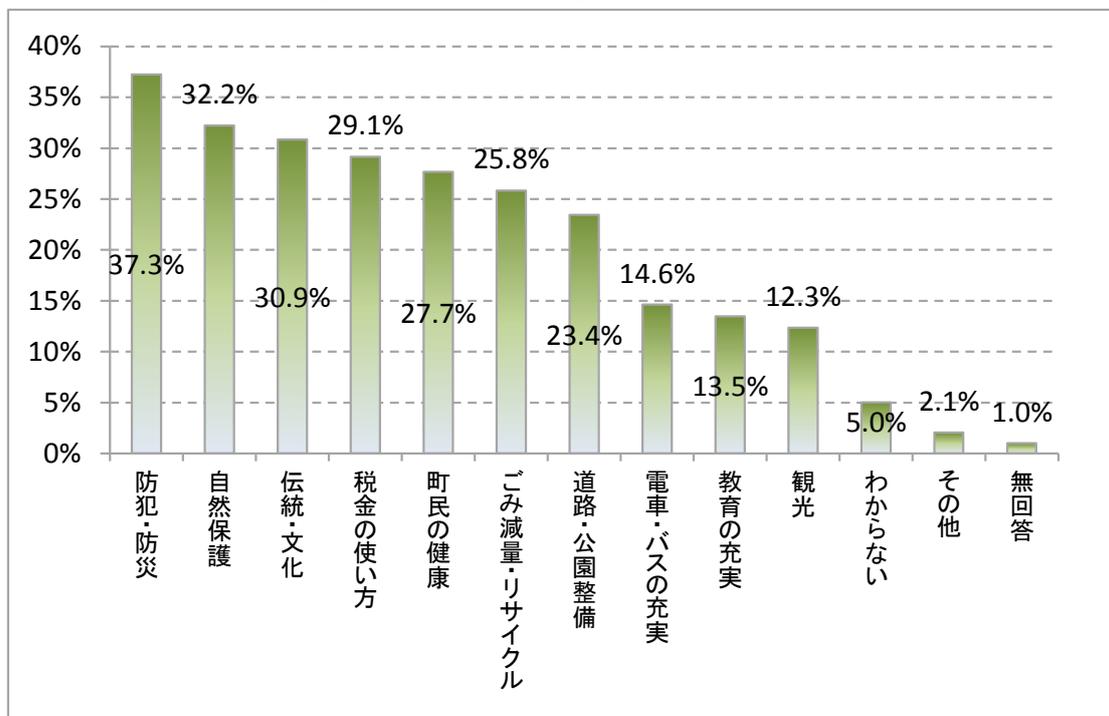
- ・児童・生徒の回答で多いものは、「防災活動」、「防犯活動」、「美化・緑化」、「ごみ減量・リサイクル」でした。
- ・一方で回答が少なかったものは、「青少年育成」、「レクリエーション」、「企業活性化」でした。

○ 笠松町にふさわしい将来像

- ・笠松町にふさわしい将来像は、「安全・安心」が最も多く、「豊かな自然」、「快適さ」、「活気・賑わい」と続きました。

○ 笠松町が大切にすべきこと

- ・第1位回答は「防犯・防災」、第2位は「自然保護」、以下「伝統・文化」、「税金の使い方」と続いています。





(2) 目指すべき将来の方向性

これまでの人口動向や将来人口の分析、将来展望に必要な調査・分析を踏まえて、笠松町における特徴を活かし、課題を解決することで、人口減少の克服を目指します。

笠松町の特徴と課題

- ベッドタウンとして機能する一方で、働く場としての機能も担っている。
- 町民意識調査においても働く場の確保が望まれている。
- 結婚等による若年世代の転入が多いものの、子どもが大きくなり、戸建住宅等に引っ越す際に町外へ転出してしまう傾向がある。
- 町民意識調査によると、にぎわいがないことが転出要因となっている。
- 町民の結婚や出産の希望がかなえられていないことが、未婚率増加や、出生数減少の要因となっている。
- 子どもたちからも安心・安全なまちづくりが望まれている。

笠松町が目指すべき将来の方向性

- ベッドタウンとしての住みやすさの向上と働く場の創出
- 交通の利を活かした交流とにぎわいの創出
- 町民の結婚、出産や子育ての希望をかなえられる環境の確立
- 笠松町に生まれ育つことに誇りが持てる意識の醸成
- すべての世代が明るく元気に暮らせる安心・安全な生活環境の整備

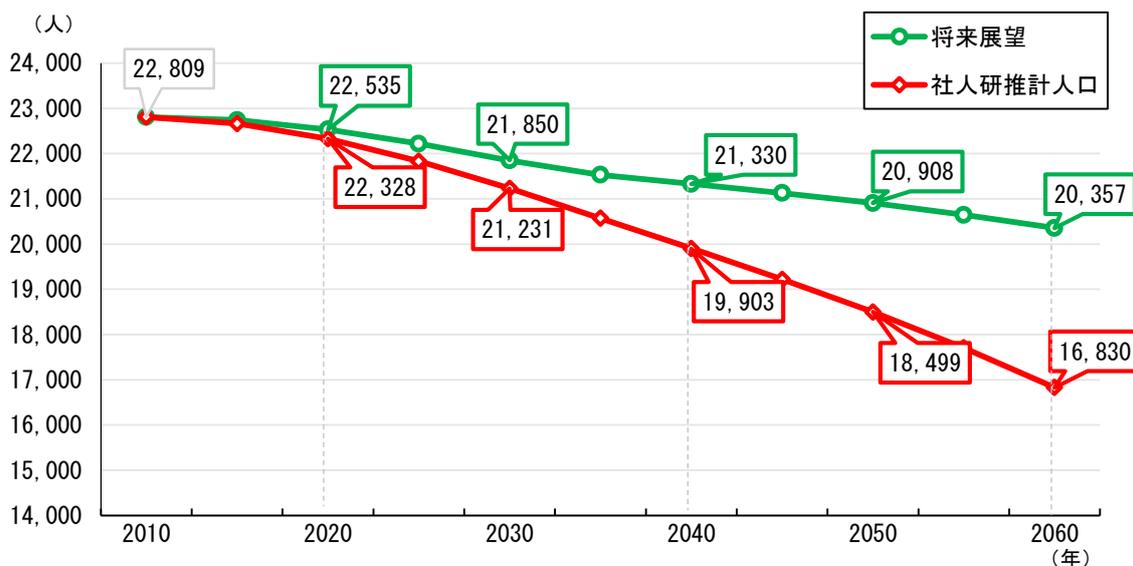
(3) 人口の将来展望

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や岐阜県の「岐阜県人口ビジョン」、並びに「笠松町第5次総合計画」を勘案しながら、笠松町の目指すべき将来の方向性を実現した将来を展望します。

① 総人口の将来展望

目指すべき将来の方向性を実現し、町民の結婚、出産や子育てに関する希望をかなえることで合計特殊出生率が改善します。また、転出の多い30歳代の転出を抑制させることでさらに出生数の維持向上が図られ、2040年の総人口は21,330人、2060年の総人口は20,357人を維持することができます。

また、2020年の総人口は22,535人となり、笠松町第5次総合計画における目標人口（2020年に22,500人）を上回ります。



推計の前提条件

- 1) 2030年に「合計特殊出生率=1.747（町民希望出生率）」（*）を達成し、2040年に人口置換水準である「合計特殊出生率=2.07」を達成する。
- 2) 転出の多い30歳代の転入数と転出数を2040年までに均衡させる。

*本戦略において定められる合計特殊出生率等の目標は町の施策の効果を検証・評価するために設定するものであり、個人の目標ではありません。



② 年齢3区分別人口の将来展望

総人口と同様の推計によると、年少人口は、合計特殊出生率改善により2010年（平成22年）からほぼ横ばいで推移します。

また、生産年齢人口は、2045年以降下げ止まりとなり、2060年には11,349人となります。

なお、老年人口の推移には影響が少ないものの、年少人口の維持、生産年齢人口の減少抑制により、笠松町の人口構造は大きく改善し、持続可能な安定した人口構造を保つことができます。

